

【実践報告】

公立中学校教員採用試験などに向けた取組の実際

広島文教大学

教育学部教育学科 教授 小西弘信

教育学部教育学科 教授 石原義文

教育学部教育学科 准教授 猪川優子

人間科学部人間栄養学科 准教授 山本妃奈子

1 令和5年・教員採用試験対策チャレンジセミナーの実際

本学では、学生が主体となって教員採用試験に向けた取組を行っている。各ゼミや受験する自治体別の勉強会のほかにも、学生からの依頼を受けて本学教員がチャレンジセミナー（以下、セミナー）を実施している。セミナーの取組は、正規の授業ではなく課外で行われる自由参加型であり、学生の主体的な学びを支援するものである。

各セミナーの開催は、前・後期及び春季・夏期休業期間において、本学の1号館から4号館の教室を使用して行われている。各セミナーの時期以外にも、教員の専門教科・領域内容についての指導や、教職センターの教職アドバイザーによる模擬授業や面接の指導は随時行われている。各セミナーは昨年とは異なり、コロナも五類に移行したことに伴い、概ね対面によって行われた。

今年度も公立中学校教員採用試験などに向けて、教育学科のセミナー委員・学生及び人間栄養学科学生の努力と創意工夫によって取組を開始・継続することができた。以下、本年の取組の概要を報告する。

1.1 春季セミナー

2020年4月の教育学部教育学科の2年次前期から、中等教育専攻の国語コース及び英語コースの学生たちは、中学校及び高校の国語・英語の教員を目指して、学修を開始した。また人間科学部人間栄養学科では、栄養教諭免許取得希望者には1年次から教育実習報告会及びその後の情報交換会への参加を必須としている。具体的には、国語教育コース・英語教育コースでは、教員採用試験受験の専門科目の基礎力を養成するために、各コースでの勉強会を2023年度も開催した。人間栄養学科は、3年次後期に受験対策をスタートし、過去問分析に取り組み、模擬試験受験や教採セミナーへの参加等を行った。（本勉強会については「3 中等教育専攻国語・英語コース及び人間栄養学科（栄養教諭）での取組」で詳述する。）

（春季セミナー）

2月14日のスタート会から3月10日の前期セミナーに向けての会まで全て対面で行った。春季セミナーで開講した講義は学生にアンケートを取り、教育学科の各教員に相談しながら日程は決められた。

今年度も、中等教育専攻学生は、初等教育学専攻の児童教育コース学生と一緒にセミナーを行った。セミナー委員も児童教育コースのセミナー委員と協議の上、セミナーの企画・運営を決定した。

セミナーは、主に教員による講義及び演習形式で行われた。講義内容としては、教職教養は「学習指導要領の解説」や「教育法規」、国語は「古典」や「国語指導法」、英語は「長文演習（読解・リスニング）」や「外国語科指導要領」などを各90分で学生は受講した。



【写真1：春季セミナー（英語）】



【写真2：春季セミナー（国語）】



【写真3：春季セミナー（教職）】

1.2 前期セミナー・二次対策セミナー

（前期セミナー）

4年次前期には、授業や卒業研究などと並行して前期セミナーが行われる。4年前期の必修授業と同様に時間割の一部としてほぼ毎週行われた。中等教育専攻学生のほとんどは、前期に教育実習が行われるため、実習の前後で、同セミナーに参加した。例年、このセミナーでは継続した取組が必要な内容を主に扱っており、今年度もセミナー委員の学生が事前調査を行って、教員と学生の空きコマに合わせて時間割を組んでいた。

また、各県人会については、各々の学生や県人会が直接教員と交渉して実施していた。その他、学生個人又は数人の依頼を受けて、教員や教職アドバイザーによる個別指導が行われるなど、表1の内容以外にも随時様々な支援は行われていた。

【表1：前期セミナーの時間割（セミナー委員調整分）】

コマ	月	火	水	木	金
1					国語現代文演習
2			教職教養		
3					
4					
5					教職教養

（二次対策セミナー）

二次対策セミナーとして、各自治体で一次試験が終わったところから二次対策を始めた。自治体ごとでグループとなり、グループごとで空きコマを合わせた。また、教員からも都合の良いコマを集め、教員と各グループの空きコマが合うところでセミナーは対面で行われた。二次対策セミナーの内容は、「模擬授業面接」、「普通面接」、「英語面接」、「場面指導」、「ICT」である。

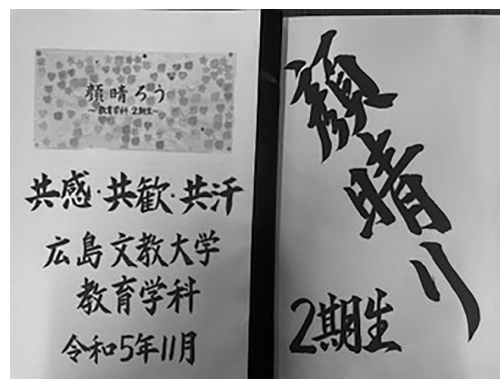
2 「顔晴り（がんばり）」の取組の実際

今年度の「顔晴り」について以下報告する。

2.1 教員採用試験等報告書「顔晴り」

本学では教員採用試験等の報告書を「顔晴り」と呼んでいる。本年度は初等・中等教育専攻の冊子が全181頁で、主には、各期のセミナー、自治体別の学習会と中学校教員採用試験、一般企業採用試験という内容である。各試験に向けた学習方法、採用試験の実際が詳細に記述されていることに加え、

後輩へのアドバイスが添えられている。「顔晴り」については、今年度は紙媒体を教員に配付し、学生へは電子データをユニバーサルパスポートによって配信していた。また、下級生が紙媒体で見ることができるよう、教職資料室と各ゼミ室に一部ずつ配布した。この冊子は教員や一般企業の採用試験を受けようと考えている後輩たちにとって貴重な資料であるとともに、学生の学びを支援する教員にとってもたいへん役立つものである。



【写真4：教員採用試験等報告書「顔晴り」】

2.2 教員採用試験等報告会「顔晴りの会」

本学では教員採用試験等の報告会を「顔晴りの会」と呼んでおり、今年度は11月24日（金）16：30～19：00で行われた。全体会は大講義室で行い、その後の分科会は複数の教室に分かれて実施している。中等教育専攻の分科会は、1号館の模擬レッスン室で行われた。



【写真5：「顔晴りの会」全体会】



【写真6・7：「顔晴りの会」中等教育分科会】

全体会では、教職センター長及び副センター長の挨拶の後、セミナー委員長の挨拶があった。次に、大学推薦、併願受験、私立受験、一般就職の各1名からの体験報告が行われた。全体会後の分科会では、広島、島根、鳥取、愛媛、九州、中等教育専攻、就職の7グループを6会場に分散させ、4年生が作成した受験対策ノートや使用した参考書等を紹介したり、1～3年生が学習の開始時期や方法等について尋ねたりしていた。全体で100名の参加者だった。

3 中等教育専攻国語・英語コース及び人間栄養学科（栄養教諭）での取組

教採に向けての中等教育専攻国語・英語コース及び人間栄養学科（栄養教諭）での取組を以下報告する。

3.1 中等教育専攻国語コース

「中等国語顔晴りの会」

中等教育専攻国語教育コースでは、2年次後期から教員採用試験に向けた学生主体の取組が始まる。

この取組は、教育学科1期生が立ち上げた「中等国語顔晴りの会」と称した勉強会であり、2期生以降にも受け継がれている。2年生のスタート会では、先輩から組織作りや活動内容についての助言を受けながら、自分たちの学年ならではの組織や活動を考えていくことから始める。活動は、基本的に週1回のペースで実施される。活動日や場所、活動内容などの企画・運営は全て学生が行い、必要に応じて教員が支援するという体制を取っている。話す力をつけるためにスピーチをしたり、ディスカッション力をつけるために積極的にグループワークを取り入れて問題検討をしたり、国語教育力を

つけるために全員で教材研究や模擬授業に取り組んだり、「一人では出来ないこと」「学生の間にしておくと良いこと」に重きを置いて活動を続けている。本年度は2期生が教員採用試験に臨んだ。国語教育コースでは、広島県・広島市・島根県・福岡県・福岡市・高知県の中学校受験者が、鳥取県の高等学校受験者が合格に至った。「中等国語顔晴りの会」の活動は、学生時代に行った主体的活動のアピールポイントとしても生かされた。今後の課題としては、国語基礎学力の養成が挙げられる。学生間に実力の差があるため、柔軟な対応が必要であると考ええる。



3.2 中等教育専攻英語コース

「英語ゼミ」

中等教育専攻英語コースでは、教員採用試験受験に向けて、2020年後期から英語教員を志望する学生を英語教員が指導するゼミを、週1回行った。ゼミの内容は、国立大学入学二次試験及び広島県・島根県等の教員採用試験を通して、文法・読解・作文の力を養成するものである。ゼミ参加は学生の任意としている。

2023年には、前・後期で2年生は隔週、3年生は毎週ゼミを開講した。参加学生は、教採に向けての意識化や教採の英文読解を解答できるほどの実力を修得していった。しかし、2学年とも教採志望全員の参加ではなかったことは課題だろう。

本コースでは、今年度は広島県からの教採2次試験合格者を複数輩出できた。合格者はゼミの参加者であるので、ゼミの効果はあったと確信している。まだ全体的に合格者数が少ないので、学生には、自分が受験する県の教採の情報をしっかりと把握し、ゼミ外でも、英語の自主学習も怠らないよう指導する必要がある。



3.3 人間栄養学科（栄養教諭）

人間栄養学科では、1年次から採用試験の現状認識と学力及び実践力を着実に向上させるための学修動機付けの機会として、栄養教諭免許取得希望者には1年次から教育実習報告会及びその後の情報交換会への参加を必須としている。情報交換会では、4年生が受験対策のポイントを具体的に説明した後、個別に質疑に応じるなど下級生の支援を行っている。

今年度の採用試験を受験した本学科の4年生2名は、3年次の秋に本格的な受験対策をスタートし、過去問分析に取り組み、3月からは模擬試験受験や教採セミナーへの参加等を行ったが、残念ながら広島県・広島市の一次試験に合格できなかった。なお、広島県教育委員会の発表によれば、令和6年度の栄養教諭の採用候補者選考試験の倍率は、一次試験が7.6倍、名簿登載者としては19.0倍、名簿登載者数は4名と大変厳しい状況であった。

令和6年度の結果を受け、一次試験突破を目指し学力の確実な定着を図るため、引き続き3年次から学科内教職担当教員やチューターが学生との面談を重ねて専門科目の習熟度を把握し、それに応じた支援を行うことや、4年次に専門科目の強化学習やグループ学習の機会を設けるなどの対策強化が必要であると考ええる。



4 令和5年度実施公立中学校等教員採用試験の結果

令和5年度に実施された公立中学校等教員採用試験の結果、各自治体の名簿に登載された者の人数を在學生と卒業生に分けて整理したものが表2である。

【表2：公立中学校等教員採用試験の結果（令和5年12月7日までに連絡を受けたもの）】

	中学校		高等学校		特別支援学校		栄養教諭		計
	在	卒	在	卒	在	卒	在	卒	
広島県・市	6	4	0	0	0	1	0	0	11
島根県	1	1	0	0	0	0	0	0	2
鳥取県	0	0	1	0	0	0	0	0	1
福岡県	1	0	0	0	0	0	0	0	1
福岡市	1	0	0	0	0	0	0	0	1
高知県	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	10	5	1	0	0	1	0	0	17

5 成果と課題

本学の教員採用試験対策チャレンジセミナーは、2019年の大学改組により、教育学部教育学科が誕生し、初等教育専攻と中等教育専攻がスタートした。そして、中等教育専攻学生は2年次より国語教育コースと英語教育コースを選択し、それぞれのコースで、卒業後、中学校・高校の国語教諭及び英語教諭になるべく学修をしてきた。

そして、3年次より、学生は本格的に教員採用試験受験に向けて、教員採用試験対策チャレンジセミナーを組織し、4年次における教員採用試験終了まで頑張ってきた。2年次を含めて2年半の学修の成果は、本報告の「4. 令和5年度実施公立中学校等教員採用試験の結果」において数字として表れている。具体的には、広島県・広島市の採用は、既卒生を含めてあった。県外の採用も、島根県・福岡県・高知・鳥取と採用を輩出できた。

課題としては、次年度では、広島県内外の採用が更に輩出できるよう向けていくことが必須である。

それには、教員が支援する形で、学生主体で、セミナーの運営方法や学修内容を振り返えることにより、どの点をどのように改善すべきかを明らかにし、改善した運営方法や学修内容提示することで、新たな取組を形作っていく必要があると考える。

最後に、コロナが2類から5類に移行し、セミナーの全てが対面で行えるものになったことは、本当に良かった。本年もセミナー委員や個々の学生の工夫と努力により、教員採用試験対策チャレンジセミナーは継続しより活発に行われ、その結果が出たことは本当に評価できることである。セミナー委員をはじめ、参加した学生たちが、日頃から頑張ってきた成果は賞賛に値することである。

参考・引用文献

- ・中高・栄養教諭専門部会「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際」（『広島文教大学 教職センター年報 2022年 第10号』広島文教大学教職センター、令和4年所収）
- ・広島文教大学教育学科第2期生『顔晴り』、令和5年